

# 保育にメディアを取り入れた保育指導案の有効利用

遠藤乃里子  
園田学園女子大学

## <要旨>

近年、パソコンやインターネットなどのIT普及率が上昇しているが、2005年にはその上昇が落ち着き前年比の1.1%減の46.6%の普及率となっている。

教育機関へのパソコンの普及は大学や高校までに止まらず、幼稚園でも用いられるようになってきている。今やパソコンは私達にとって生活の一部となっているといえる。私の考える、幼稚園や保育所での保育では、幼児は外で遊んだり、部屋の中でみんなと一緒に遊んだりして遊んでいるものだと思っており、パソコンを使うのは、小学校に入ってからだと考えていた。ゼミ活動の中で、園児がメディアを使い保育をしている姿をみて、今の幼稚園では、メディアを使い保育をしていることを知った。

その中で、私は、幼稚園の先生はどのようにして保育の中で、メディアを保育に取り入れ、どのように保育指導しているのかを疑問に思い、メディアを使った保育の中での保育指導案はどのようなものなのかに注目し、研究をすることにした。本研究では、実際に幼稚園で、メディアを取り入れた保育を見学し、そこでの先生の指導の仕方や幼児の行動をカメラで撮影し、その画像や保育の反省・感想などを指導案に載せてホームページ上に更新していく。そして、次にメディアを使用した保育を行う際、保育指導案を書くときにより参考に出来るかどうかを明らかにする。また、参考となるポイントを明らかにする。

協力していただく学が丘幼稚園での普段の保育では、幼稚園の先生が書いている指導案は1週間分をまとめて書いている週案がある。まとめて書いているため、1日ごとの日案はおおまかなものとなっている。メディアを使用した保育のときに書く保育指導案もまた、普段の保育と比べて保育の内容や一日の計画が違ってくる。そこで私は、幼稚園でメディアを取り入れた設定保育を3回見学し、どのような保育指導案が次にメディアを使用した設定保育の指導案を書くときに参考となるかを分析する。

結果、保育指導案を作成する際のポイントとしては、デジカメで撮影した子どもたちの様子などを載せること。いつでもすぐに前回のメディア保育の内容を閲覧ようにできること。また、今後の課題としては、あらゆるメディアを使用して、保育に活用できる他のメディアも見出す必要がある。保育で活用できるメディアが多種になれば、各幼稚園が独自のメディアを取り入れた保育指導案を作成し、多岐にわたる保育指導案の基で行われる保育によって、子ども達の可能性が広がるのではないかと考える。

キーワード：保育指導案、メディア、幼稚園、ホームページ

## 1. はじめに

近年、パソコンやインターネットのIT普及率が上昇しているが、2005年にはその上昇が落ち着き前年比の1.1%減の46.6%の普及率となっている\*1。

しかし、それでも世帯の半数以上はパソコンやインターネットを使用しており、携帯電話の普及率においては82.0%にまで至っている。\*1

今やパソコンは私達にとって生活の一部となっているといえる。また、企業でもパソコンを使うのが当たり前の時代となり、さらに大学や高校などの教育機関へのパソコンの普及、授業が増え、関心も高まってきている。教育機関へのパソコンの普及は大学や高校までに止まらず、幼稚園でも用いられるようになってきている。パソコン教育に興味がある幼稚園などで作る「日本幼児コンピュータあそび研究協議会」\*2が今年6月に発表した「幼児とコンピュータに関する実態調査アンケート」（関東近郊の私立幼稚園13園の保護者が対象。回答2129件）によると、約8割が「パソコン遊びを好ましい」と考えている。「パソコンの苦手意識がなくなる」との理由が最多だった。一方、反対する理由では「幼児期はもっと体を動かす遊びに専念すべきだ」が多かった。

私の考える、幼稚園や保育所での保育では、幼児は外で遊んだり、部屋の中でみんなと一緒に遊ぶことをしたりして遊んでいるものだと思っており、パソコンを使うのは、小学校に入ってからだと考えていた。また、パソコンは幼児にとっては難しすぎて、まだまだ必要性が無いものだと考えていた。しかし、ゼミ活動の中で、園児がメディアを使い保育をしている姿をみて、今の幼稚園では、メディアを使い保育をしていることを知った。そこで、私は、幼稚園の先生はどのようにしてメディアを保育に取り入れ、どのように保育指導しているのかを疑問に思い、メディアを使った保育の中での保育指導案はどのようなものなのかに注目し、研究をすることにした。

また、卒業生の桐山尚子さんの研究\*3の結果からメディア導入時の設定保育の保育プランを立て

る重要性があるとの結果が出た。保育にメディアを取り入れた設定保育の指導案が次に保育をする先生にとってメディアを使用した保育の計画たてる際に参考になるものを作成しようと考えた。

## 2. 先行研究

「幼児にもわかるコンピュータ教育 LOGO プログラミングの学習」\*4では、今の世の中、メディアを使ったゲームや遊びはたくさんある。現代の学校教育の中ではなくてはならないものとなっている。子どもの教育にたずさわる教師や親にとって、コンピュータ教育が今後どのように進展していくかは、大きな関心となっている。しかし、現時点では、コンピュータ教育に対する期待の大きさがその実像を大きく上回っていると言えよう。コンピュータ教育は人気先行で十分実力を伴っていない、と言っても過言ではない。と、述べている。

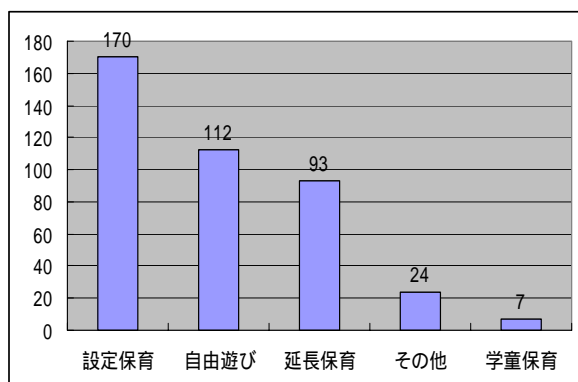
確かに、私の子どもの頃と比べ今の子どもたちの遊びと言えば、ゲームやパソコン機器を使用したものが多くなっている。しかし、今は遊びとしてだけでなくゲームやパソコンは教育の場でも幅広く使用されている。パソコンやゲームといったメディア教材は今や幼稚園でも使用されている。それは、以下に述べる桐山尚子さんの「保育にメディアを取り入れる時の設定保育の重要性について」\*3で明らかにされている。桐山尚子さんの研究の中では、保育にパソコン教材を導入している幼稚園は非常に少なく、その理由として、2つの問題点の仮説を立てている。1つ目は、パソコンは積み木などと違い、一見しただけでは遊び方のイメージをつかむことはできない。そのため、保育室にただ単にパソコンを設置しただけでは、子ども達は、遊び方がわからず、それらに慣れ親しみ遊ぶことはできないと仮説を立てている。2つ目は、先生自身がメディア利用のイメージをつかめていないため、どのように保育にパソコンを利用すればよいかわからないのではないかと仮説を立てている。そこで桐山尚子さんは、子ども達に

使いやすい画面に直接ペンで書き込むことができる液晶ペンタブレットを幼稚園に設置した。設置期間中はフィールドノートを取り、設定保育のプランは桐山尚子さんが考え、それを先生に伝え実行してもらっている。先生にも保育後のインタビューを行い、先生の感想と、先生側からみた子ども達の様子を調査している。以上のことを、4ヶ月にわたり調査した結果、子ども達は設定保育後、液晶ペンタブレットを遊具として定着させていた。先生からのインタビューでもそれは明らかであり、また、どのように保育にパソコンを利用すればよいかわからないという先生の問題も解消できた。以上の結果から、メディア導入時の保育プランを立てる重要性があるといえる。

私は、この桐山尚子さんの研究を基に、メディアを取り入れた保育の指導案の重要性について本研究をすすめる、有効利用できる保育指導案を作成することにした。

堀田博史（他）著書、園田学園女子大学論文集38号「保育におけるコンピュータ利用の実態調査」<sup>5</sup>では、全国の幼稚園にアンケート調査を行い、約78%の園が保育にメディアを取り入れていると回答している。メディアを利用している保育活動は図1の通りである。

（園数）



メディアを利用している保育（図1）

メディア利用の保育形態の中で私がもっとも注目したのはメディア利用に関しての指導計画があるのはわずか約22%で約76%の園が特に保育計画をたてていないことがわかった。幼稚園の先生がメディアを使用した保育の指導計画を書き、次

にメディアを使用した保育をする先生へとつながっていくようなものを作れないかと考えた。

### 3. 研究の目的とねらい

先行研究により、メディア導入時の設定保育の保育プランを立てる重要性があるといえる。

しかし、保育者自身がメディアを利用した設定保育のイメージをつかめていないため、どのようにしていいかわからないのが現状である。実際、普段からパソコンやメディアを使用した保育を行っていないため、メディアを取り入れた保育がスムーズに行われていない。また、子どもたちの保育を行う先生の多くが情報教育を受けていないため、先生が幼児にデジタルカメラやパソコンを教えることができないといった実情もある。結果、幼稚園側は専門講師を招いて幼児と一緒にメディアを取り入れた保育を実施していた。しかし、これでは、幼稚園がメディアを取り入れた保育を試みる度に、常に専門の講師を招かねばならず、それこそメディアを取り入れた保育がスムーズにいかなくなるという悪循環が生じる恐れがあると考えた。

そこで、本研究では、実際に幼稚園で、メディアを取り入れた保育を見学し、そこでの先生の指導の仕方や幼児の行動をカメラで撮影し、その画像や保育の反省・感想などを指導案に載せてホームページ上に更新していく。そして、次にメディアを使用した保育を行う際、保育指導案を書くときにより参考に出来るかどうかを明らかにする。また、参考となるポイントを明らかにする。

### 4. 研究方法

本研究で、協力していただく学が丘幼稚園での普段の保育では、幼稚園の先生が書いている指導案は1週間分をまとめて書いている週案がある。まとめて書いているため、1日ごとの日案はおおまかなものとなっている。メディアを使用した保育のときに書く保育指導案もまた、普段の保育と

比べて保育の内容や一日の計画が違ってくる。そこで私は、幼稚園でメディアを取り入れた設定保育を3回見学し、どのような保育指導案が次にメディアを使用した設定保育の指導案を書くときに参考となるかを分析する。

第1回設定保育ではまず、今回の全ての設定保育に使用しようと考えているデジタルカメラの使用方法的説明をする。そして、実際に子ども達にも使ってもらい、デジタルカメラの使い方を学んでもらう。ここでの目的は、デジタルカメラに興味を持ってもらい、使い方を覚えてもらうことにあるので、デジタルカメラの被写体は子ども達に自由に選んでもらう。

第2回設定保育では、ビデオも取り入れてみる。毎日デジタルカメラで撮っている青虫が蝶々になる生態の仕組みを、ビデオで詳しく知る。

第3回設定保育では、幼稚園外にも出て行き、四季の変化をデジタルカメラで撮る。また、デジタルカメラで撮った写真を画用紙に貼っていき、地図を作っていく。

メディアを使用した保育をする際に、先生から事前にもらった保育指導案に、反省や今後の課題や写真などを入れ、わかりやすくしたものを作成する。保育指導案をもっと有効利用するためにホームページ上に掲載し、CD-ROMや紙に印刷したものに、映像などを載せることによって次に保育を行うときに、より参考になるかどうかを明らかにする。また、保育指導案を作るときに参考となるポイントも明らかにする。

## 5. 第1回設定保育とその考察

### 5.1 メディアを使用した保育を見学する目的

3,の目的でも書いたように、メディアを使用した保育の中で書く保育指導案にデジカメで保育の内容を撮影した画像を載せたものを作成する。

### 5.2 デジカメ遊び

第1回設定保育の実施日時は4月27日水曜日

の朝9:30~10:30 いるか組の主題は、「デジタルカメラで写真を撮る」、10:30~11:30 くじら組の主題「デジカメで撮ろう」計2時間である。

今回の保育では、最初にこの時間はデジタルカメラで撮影するもののテーマについてのお話があり、堀田先生からデジタルカメラの使い方や注意点などの説明があり、幼児たちは初めて使用するものに興味を持って聞いている様子だった。

この日の設定保育の流れ(表1)

時間	ねらい	予想される幼児の活動
9:30		グループに分かれて座る。
9:35	・デジタルカメラの使い方を知る。	挨拶をする。 デジタルカメラの使い方を聞く。
9:45	・園庭の木や花など撮りたいものを見つける。	デジタルカメラで撮影する。
10:00	・見つけたもののそれぞれの良さを認め合う。	撮った写真を発表する。 教師の話聞く。 挨拶をする。

デジタルカメラの使い方を聞く。

#### (1) 堀田先生からの注意点

- ・大きいボタンと小さいボタンがあり、大きいボタンをしっかりと押しながら「いち」と数えましょう。
- ・水につけたら壊れるから水にはつけないこと。
- ・落としたりこわれるから落とさないこと。
- ・友達に渡すときは両手で渡すこと。

#### (2) 幼稚園の先生からの注意点

- ・一人一枚は必ず撮ること。
- ・グループで行動すること。
- ・園からは出ないこと。



先生の話聞く子ども達 (図2)

デジタルカメラで撮影する。

撮影中の子ども達の様子は、先生や堀田先生の注意ごとを良く効き、グループで協力し合って撮影している様子だったが、長い間撮るものも定まらない子どもがいて途中で電源が切れてしまい困っている様子の子どもの何人かいた。



デジカメで撮影する子どもたち(図3)

撮った写真を発表する

撮った写真をグループごとに発表し、プロジェクターでみる。このとき、レンズに指が入ってしまっている子ども達何人かいた。また、大きいボタンがしっかりと押せていないため、撮れていない子どもも何人かいた。



他の子が撮影した写真を見ている(図4)

### 5.3 先生へのインタビュー

今回のメディアを使用した保育が終わった後で保育指導案の反省などについて先生に尋ねた。

「デジタルカメラを使うのは初めてだったのに子ども達は予想していたよりも混乱せずに取り組んでいたと思う。」や「撮影したものをみんなで見合うときは、もっと子ども達がお互いのことを認め合ったり、一人一人に発表させたらよかったですと思いました。」といった意見がどちらの先生からも出ていた。この保育と同じ内容の設定保育をI幼稚園でも行った。I幼稚園でもM幼稚園同様、インタビューを行った。

“春の自然”というテーマでした。デジカメ遊びが始まると、グループごとに分かれて、楽しそうに行っていました。草花を撮るというよりはデジカメを触って楽しむというというほうに興味があったように思います。撮ったものを聞いてみると「おはなー」とだけ言っていたので、次回プリントアウトして、新聞作りをする際は、図鑑を用意し、みんなで話し合いをしながら進めていこうと思います。「楽しかった」またやりたいという声を聞けたことをうれしく思いました。しかし、スクリーンでみたときお話を聞く姿勢がすぐに崩れてしまったので日ごろから心がけていきたいと思った。

### 5.4 今回のメディアを使用した保育の感想

私は、最初、子どもたちは自分勝手な行動をしないか、みんなで協力しあって草・花を撮れるかどうか、また、デジタルカメラできちんとした写真が撮れるか、手ぶれしてきちんと撮れていないのではないかと心配していました。しかし、思っていた以上に手振れしないで撮影できていました。みんな、自分たちが撮影してきた写真が前のスクリーンにうつしだされるととてもうれしそうに話しました。やはりそのなかにも、しっかりシャッターボタンを押せていなくて写真が撮れていない子や、レンズに指が入っていた子どもがいて悔しそうでした。

## 6 第2回設定保育

### 青虫の成長

#### 6.1 青虫からちょうへの変身の様子を知る

第2回の設定保育の実施日時はM幼稚園 いるか組 朝9:45~10:30 主題「自分の蝶々を描こう」の予定で保育が行われた。

この日の設定保育のながれ (表2)

時間	ねらい	予想される幼児の活動
9:45	・あおむしの成長の様子や生態を知る。	グループに分かれて座る。
9:50		デジタルカメラで撮影した「青虫」の写真を見る。デジタルカメラで撮影する。
10:00		ビデオを見る。 ビデオをみて青虫の成長を振り返る。
10:05	・想像したものを絵に描き表す。	青虫の絵を描く。
10:30		友達の描いた絵を見合う。

今回のメディアを使用した保育では、毎日当番の子どもがデジタルカメラで撮影している青虫の日々の変化をふりかえり、青虫の特徴や生態を知るのが今回の目的である。



生態や成長を振り返っている様子 (図5)

#### 子どもたちの様子

子どもたちが育ててきた青虫が蝶々になっていたのビデオを見ながら先生と一緒に青虫の生態

や成長を思い出しながら振り返っていた。



子どもたちが描いている様子 (図6)

#### 蝶々を描こう

次に青虫がさなぎになり、どのような模様の蝶々になるのかを画用紙に描いてみた。

#### 6.2 先生へのインタビュー

今回のメディアを使用した保育が終了した後に保育指導案を通しての反省などを先生に尋ねました。「身近な青虫について絵本だけでなくビデオを使うことで生態をより理解できたと思います。」また、よりいっそうさなぎが蝶々になることに期待をもっていたと思います。「本当の蝶々を詳しくみたことで、自分で自由に想像し、絵にするには難しかったようです。」子どもたちは自分たちが育ててきた青虫を毎日デジカメで撮影して蝶々になったのを思い出しながらビデオをみていました。また、ビデオを見終わって先生からの青虫の生態についてクイズを楽しそうに全員で答えていた。と語られた。また、1幼稚園ではなすびの成長をみんなで観察し、デジカメで日々の成長をデジカメで記録している。

#### 6.3 今回のメディアを使用した保育の感想

今回のメディアを使用した保育は、子どもたちが育ててきた青虫がさなぎへと成長し、蝶々になったことで次はどんな蝶々が出てくるのか想像して絵を描いてみようというものであった。子どもたちはそれぞれ思い思いの絵を描いていました。私は、メディアを使用した保育というとパソコンやデジカメを子どもたちが使用するのだと思って

いたが、ビデオ機器とプロジェクターを使用して大きなスクリーンでみるというものであった。大きなスクリーンでみることは子ども達にとってもビデオの内容がわかりやすかったと思う。

20日(月)くじら組 10:45~11:45 6月29日(水)いるか組 9:50~10:40の計2時間でした。

今回のメディアを使用した保育のねらいは、「四季の変化に気付く」「デジカメの操作に興味を持って取り組む」「地図作りを楽しむ」の3つでした。保育内容は、以前撮影した園庭や園外の自然の様子の写真と今の園庭を見比べて発表する。自然の移り変わりを知ることが今回の目的である。

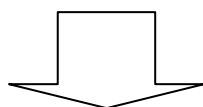
## 7. 第3回設定保育

### 7.1 変身地図を作る


第3回の設定保育の実施日時は、M 幼稚園 6月

幼稚園の先生が書いたメディア保育を行う前の保育前の 設定保育の流れ (表3)

時間	ねらい	予想される幼児の活動
10:40	・ 幼稚園の今の自然を確認する。	グループに分かれて座る。
10:55		挨拶をする。
11:10	・ 自然に対して興味を持つ。	自分の写真を取りに行く。
11:40		自分の撮影した場所に写真を持って確認しに行く。 どう変わったかを見つける。
11:45		写真を切り取り、のりづけする。 貼ったグループごとに発表する。
12:00		終了



メディア保育後の保育指導案 (表4)

時間	ねらい	予想される幼児の活動	記録・感想等
10:40	幼稚園の今の自然を確認する。	グループに分かれて座る。	・ デジタルカメラの使い方はとても慣れてきていてほぼ問題なく使うことができていた。 ・ 季節の変化に気付くというねらいのもとに行ったが以前撮った日との間があまりなかったため、変化が気付きにくかった。また、変化しないものを撮っていた子もいて、ねらいを自然の変化だけでなく事象なども含めた変化に気付くようにしてもよかった。
10:55		挨拶をする。 自分の写真を取りに行く。	
11:10	自然に対して興味を持つ。		
11:40			以前撮影した場所を探している園児たち(図7)
11:45			自分の撮影した場所に写真を持って確認しに行く。

## 子どもたちの様子

子どもたちは以前、自分が撮影した写真を持ち、今はどうなっているかを探しに行くのですが、場所を覚えていない子もいてグループで協力して探していた。

写真を切り取り、のりづけする。

以前に撮影した写真の中で撮りたかったものだけを切り取り、撮影した場所のグループごとに画用紙に貼っていきました。



子ども達が絵を描いている様子（図8）

## 7.2 先生へのインタビュー

今回のメディアを使用した保育が終わった後で、いるか組やくじら組の先生に保育指導案の反省や今後の課題について尋ねた。

デジタルカメラの使い方はとても慣れてきていてほぼ問題なくできていた。

季節の変化に気づくというねらいのもとに行ったが以前撮影した日との間があまりなかった為、変化に気づきにくかった。又、変化しないものを撮っていた子もいて、ねらいを自然の変化だけでなく事象なども含めた変化に気づくようにしてもよかった。目的物を切り取ることで撮りたかったものを探すのも難しかった子もいた。今後の変化も加えていき、1年を通して変身地図作りを完成させていきたい。

幼稚園にある自然をみんなで見るという事で、今まで自分で撮影した写真をグループ分けしました。撮りたかった対照が分かりやすくなる様に、写真を切りましたが、切ったものを見

ると、すごく小さいものだけ残る子や、ピントが合っていないものの方を残す子など、できてみて驚きました。写真を見てどうかわったかと、子どもが気付くのは難しかった様に思います。これからまた、続けていき、これからの四季の変化に気付けるように出来たらと思います。

## 7.3 今回のメディアを使用した保育の感想

春に撮影した写真をみながら園庭に出て撮影した場所をさがしている子どもたちの姿は、季節の移り変わりを発見して、みんな嬉しそうに話をしていた。先生が言っていたようにデジタルカメラの使い方が上手になっているようでした。また、保育の時意外でもデジカメがあると「撮りたいー」や「かしてかして」などの声が聞かれるようになったとの話を先生方から聞いた。今回の公開保育は普段のお遊戯のときの保育とは違い季節の変化を園児達に教えるといった目的のため先生は、いつものメディアを使用しない保育の時よりも、真剣な感じがしました。

## 8. ホームページ

### 8.1 ホームページの作成のねらい

今回の目的は前述したとおり、有効利用できる保育指導案を作成することである。しかし、従来の1枚の紙でできた保育指導案に、デジタルカメラで撮った画像を載せて作成した保育指導案を、幼稚園の先生に見てもらっただけでは有効利用はできないと考えた。

そこで、幼稚園の先生用のホームページを作り、その中で保育指導案を作成していくようにする。そして、そのホームページをCD-ROMに保存し、利便性をよくしたら、有効利用してもらえるのではないかと考えた。保育指導案をホームページで管理するメリットとして挙げられるのは、整理がしやすいことである(いつ、どこの組、担当の先生などが一目でわかりやすくなる)。しかし、ここでの問題点は、大学の

時に情報教育を受けていない先生がパソコンを使いこなせるかどうかである。

そこで、普段パソコンをあまり使用しない先生にも気軽にみることができるものを作る。

## 8.2 ホームページ作成時に心がけること

今回作るホームページはweb上に公開はしない、デザインや閲覧する側の使いやすさ、見やすさを心がけた。普段はあまりパソコンを使用しない先生方だからわかりやすくした。また、保育指導案をPDFファイルにした。

今回作るホームページはweb上に公開はしないが、デザインや閲覧する側の使いやすさ、見やすさを心がけた。普段はあまりパソコンを使用しない先生方だからわかりやすくした。また、保育指導案をPDFファイルにした。

しかし、ホームページのレイアウトやPDFファイルを見やすくしようと思いTOPページに保育指導案を貼り付けてしまった。これでは、見やすいが、何のために誰が作成したホームページなのか全くわからなくなってしまった。そこで、最初の画面からクリックしたページを2画面にした方がいいとの意見が幼稚園の先生方から多数でたので 図 13 のようにTOPページを参照しただけで、保育の内容をイメージすることのできるレイアウトになった。

## 8.3 ホームページの使い方

TOPページには、帽子（研究目的）・旗（保育指導案）・水筒（素材のリンク先）と、4つのマークがあり、上・下に分かれている。

### 8.3.1 帽子のマーク

帽子のマークを押すと、本研究の目的を書いた文が表示される。研究目的を載せた理由は、今回のメディアを使用した保育指導案をどういった意図で作成したのかを、使用する先生に見てもらうためである。

### 8.3.2 旗のマーク

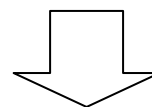
旗のマークの保育指導案を押すと保育指導案のページになり、メディアを使用した日にちと、組の名前や行った内容が出てくる。組の名前を押すと右の画面にPDFで保存されたメディアを使用した設定保育のファイルが表示される。

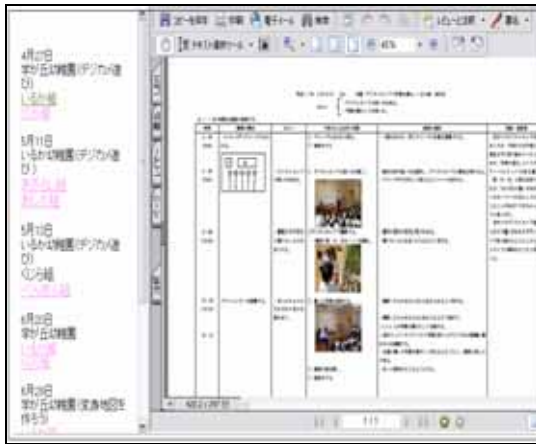
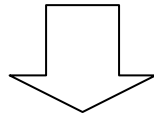
### 8.3.3 水筒のマーク

水筒のマークのリンクを押すと今回、ホームページを作るにあたって使用させていただいた素材の元のサイトのリンク先が表示される。

### 8.3.4 手紙のマーク

手紙のマークのご意見感想を押すと、筆者にこのホームページやメディアを使用した保育指導案についてのご意見感想がメールで送れるようになっている。





ホームページ（図9）

## 9. 考察 とまとめ

メディアを使用した設定保育を行う際に、前回のメディアを使用した保育指導案をみて参考にできているかどうかを疑問に思った。

そこで、本研究ではメディアを使用した保育指導案を保育が終わったあとも、より有効活用するため、保育指導案の改善を行った。

結果、設定保育のときは普段の保育と違い、園児の行動や保育に機器を使用するため、スムーズに行われていないことがわかった。その他にも、計画していた時間のずれや活動の細かいことが違ってくる。こういったことを改善するためにも新しく作成した保育指導案を有効利用してもらい、園児たちが楽しくメディアを使い保育ができるためには、メディアを使用した保育を多く経験することである。

そこで、紙ではわかりにくい保育の内容を、デジタルカメラで撮った画像などを載せて、より保育の内容がわかりやすい保育指導案を作成するのを主な目的とした。

また、有効利用してもらうためには、ホームページにし、1つのファイルにまとめて、見やすくしたものを作成したほうが便利なものではないのかと考えた。また、保育指導案を書く際

のポイントとしては、子ども達の様子をデジカメで撮影したものを載せることやホームページ上にすることによって見やすく、また使いやすくなり、有効利用してもらえることが明らかになった。普段メディアを使用しない先生も使用できるような簡単なメディアがあれば先生方ももっと積極的にメディアを使用した保育ができるのではないかと考える。

## 10. 最後に

私は、ゼミ活動の中でメディアを使用した保育を見学してきて、お遊戯や集団遊びとは違い4,5人のグループで行動することで子どもたちは誰一人とわがまを言うことなく集団生活、主に「きちんと座ること」「一定時間、先生の話を聞くこと」などができている子どもばかりでした。今回の調査内容は、短期の間に行われたものである。また、2つの幼稚園で行い、被験者となっていた先生方や子ども達は非常に少数であったといえる。

メディアを使用した保育は先生方からすれば、まだまだ特別な保育と考えられている。もっと多く、日常の保育と同じくらいメディアを使用した保育を行って、先生方や子ども達にもどんどんメディアに慣れ親しんでもらい、成長して行ってほしいと思う。そのためにも、先生方にはパソコンを使用する幅を広げてほしいと考える。

本研究の目的は、メディアを使用した保育を行ったことがなく、メディアを使用した保育指導案を書いたことのない先生が保育指導案を書く際に、参考になる保育指導案を作成することである。そして、作成したものを使用していたき本当に私が作成した保育指導案が参考になるのかどうかを実証できれば良いと考える。また、メディアを使用した保育をWeb上で公開したら他の園ともメディアを使用した保育を書

く際に有効活用して情報交換ができるのではないかと考える。

## 謝辞

本研究を進めるにあたりご協力して下さった園田学園女子大学短期大学部附属学が丘幼稚園・阪急学園いるか幼稚園の先生方，園児の皆様，園田学園女子大学国際文化学部 堀田ゼミの皆様にご心より深くお礼申し上げます。そして，ご指導をいただきました堀田博史先生に深く感謝申し上げます。

## 引用文献

- (1) パソコン世帯復普及率  
<http://www2.ttcn.ne.jp/~honkawa/6200.html>
- (2) 携帯電話世帯普及率  
<http://www2.ttcn.ne.jp/~honkawa/6350.html>
- (3) 「日本幼児コンピュータあそび研究協議」  
<http://www.jnews.com/press/2005/09/09.html>
- (4) 「幼児にもわかるコンピュータ教育 LOGOプログラミングの学習」：子安増生 p3
- (5) 「保育にメディアを取り入れる時の設定保育の重要性について」：桐山尚子 p p.415-426
- (6) 園田学園女子大学論文集 38号「保育におけるコンピュータ利用の実態調査」：堀田博史・金城洋子・新田恵子・竹内淑・水上希・永井逕一・船曳明子・坂和美 p p 141 - 168 (2003)